



先生のおすすめ絵本

ねずみくんのチョコッキ 〈作〉なかえよしを 〈絵〉上野紀子 〈出版〉ポプラ社



こぼと組の子どもたちが大好きな絵本の一つ「ねずみくんのチョコッキ」を紹介します。お母さんが編んでくれた赤いチョコッキを着たねずみくん。「ぴったりにあうでしょう」と嬉しそうに言います。そこへ、あひるくんがやってきて「ちよっと着せてよ」。今度はさるくんが。そして、アシカくん、ライオンくと次々に動物たちがやって来てチョコッキを着ていきます。あらあら、チョコッキはどんどん伸びて…。ねずみくんの赤いチョコッキはどうなってしまうのでしょうか。シンプルな繰り返しですが、姿も大きさも違う動物たちが登場し、ユーモアたっぷりにチョコッキを着る姿がとても可愛らしく、読み聞かせの時間が楽しみになるそんな絵本です。

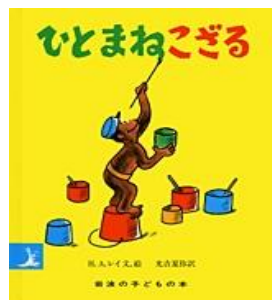
〈こぼと組 T 先生〉

おばけかぞくのいちにち 〈作〉西平あかね 〈出版〉福音館書店

おばけかぞくの一日は夜に始まります。夜に起きて、おばけの子どもさくぴーとたろぼうは保育園へ、お父さんは仕事へ、お母さんは掃除や買い物へ。朝が近づくと家に帰り、ご飯を食べたりお風呂に入ったり、そして夜まで眠ります。人間とは生活している時間が違うけれど、保育園でたくさん遊んだり、家族皆で団欒するところは皆と一緒。そんなおばけの楽しい暮らしを垣間みることのできる一冊です。初めて読み聞かせをしたのは一学期の頃でした。この絵本、シリーズが何冊もあり、子ども達は、本棚から新しいシリーズを探してきては「今日はこれにして！」ととりこになって、園にあるシリーズは全部読んでしまいました。子ども達は、おばけの姉弟さくぴーとたろぼうを自分に重ね合わせて楽しんでいるのかもしれないね。3学期になった今も「これ読んで」と選んでくる程、大好きな絵本です。



〈ひまわり組 K 先生〉



ひとまねこざる

〈作・絵〉H.A.レイ 〈訳〉光吉夏弥 〈出版〉岩波書店

動物園に住んでいる知りたがり屋のおさるが、動物園の外が知りたくてたまらずに次々と事件を起こします。読み始めてすぐに子ども達は、おさるのジョージに親しみを感じて、次はどんないたずらするのかと吸い込まれるように見ていました。おさるらしい軽やかな動きに「いいなあ」と憧れ、ジョージが泣いてしまう場面では「かわいそう…」といきをのんで心配の声が漏れてきました。色々な人との出会い、助けられ、とつてもドラマチックなお話でした。イギリスの様々な乗り物や素敵な街並みが描かれ、じっくりと絵を眺めて楽しめる絵本だと思います。

〈ふじ組 O 先生〉

※紙面で紹介している絵本の表紙画像の掲載には、出版社の許諾をいただいております。

読み聞かせノートより

はははのはなし

〈作・絵〉加古里子
〈出版〉福音館書店

歯が抜けて、笑顔がちょっとマヌケになってくると読みたくなる「はははのはなし」。「歯が抜けた人?」「まだの人?」と手を挙げてもらうところから始まります。どうして「むしば」になるのか、丈夫な「歯」をつくるにはどうしたらいいのか…歯の入れ替わるタイムリーな話題だからか、とても真剣に聞いてくれました。「ははははは…」と続く場面では、きれいな歯を見せて笑ってくれる子、自分に何本の歯が生えているのか一生懸命数えている子、こちらも笑顔になってしまう素敵な時間でした。 〈さくら組 I さん〉

ゆきのかたち

〈監修〉高橋健司
〈写真〉片野隆司
〈出版〉ひさかたチャイルド

ちょうど、雪の予報が出ていたので、選んだ一冊です。この辺りの地域では見られない壮大な雪の写真や形の不思議。また目には見づらい雪の結晶を写真で分かり易く示してくれている写真絵本で、子ども達も驚いたように見てくれていたので嬉しかったです。雪の形が「六角形」と教えてくれる子もいました。

〈ふじ組 E さん〉

編集
後記

ブレイメン通信を一年間読んで頂きありがとうございました。いつもと違った状況の中、たくさんの方のご理解、ご協力のおかげで、かけがえのない時間を絵本を通して子ども達と一緒に過ごすことが出来ました。おうちの人や先生方の読んでくれた絵本が、子ども達一人一人にとって何度も読み返したくなる「宝物」のような一冊になれば嬉しいなと思います。

〈ふじ組 N 〉